

分野名		生体機能形態医学分野								
科目名		分子細胞形態科学（発生生物学コース）								
英文科目名		Molecular and Cell Structural Science (Developmental Biology)								
担当教員	研究指導教員	八田 稔久 教授								
	科目担当教員	島田 ひろき 教授 坂田 ひろみ 准教授								
代表的な研究課題		各器官の正常発生を司るメカニズムの解明								
		胎盤の構造と機能の解明								
		DOHaDにもとづく器官形成障害のメカニズム解明								
学修目標	一般目標	人体の構造と形態について、細胞から組織・器官のレベルにいたるまでその機能も含めて概説できる。								
	行動目標 (DPとの関連)	一般目標達成のために必要な形態学的研究法を修得し、論文作成に必須の実験結果解析法、文献検索とその評価法を身につけることができる。						(DP1・2・3・4)		
	学位授与方針 (DP)	DP1：医学・生命科学全般にわたる幅広い学識と生涯にわたり自立して研究活動を継続する能力を有している。								
		DP2：高い倫理観と高度の専門知識を有し、最先端の医学研究を企画・立案して遂行する能力を有している。								
DP3：独創的な学術論文を論理的、かつ明確に記述して公表し、国内外の学会において発表し討議する能力を有している。										
		DP4：科学的技能を活かして、地域医療から国際保健・医療まで医療全般の進歩に貢献し、次世代の研究者育成にも貢献する能力を有している。								
教科書		教科書は定めず、事前に資料を配付する								
準備学習	内容	事前配布する資料に目を通し、問題点を抽出しておくこと。								
	時間	30分/1回の授業あたり								
課題に対するフィードバック		レポート等の課題を提出させた場合は、内容のチェック・添削を行い、本人へフィードバックして理解度のアップをめざす。								
評価方法等	評価方法	提出レポートによる方法								
		評価配分：レポート 100%								
	成績評価基準	教育要項22頁[成績評価・単位認定方法等]参照のこと								
科目番号		講義	50101A01	演習	50101A02	実験実習	50101A03	特別研究	5050102	
単位		4		4		4		6 (2-4年次で)		
		30コマ	60H	60コマ	120H	60コマ	120H	30コマ	60H	
開講時期		通年		通年		通年		通年		
配当年次	主科目とする場合	1または2年次		1または2年次		1または2年次		2-4年次		
	副科目とする場合	1、2、3年次		-		-		-		
選択/必修の別	主科目とする場合	必修		必修		必修		必修		
	副科目とする場合	選択		-		-		-		
時間割	区分		講義		演習		実験実習		特別研究	
	昼間	前期15週	水曜 4限目		金曜 2-3限目		金曜 4-5限目		水曜 5限目	
		後期15週	水曜 2限目		火曜 2-3限目		水曜 4-5限目		水曜 3限目	
	夜間	前期15週	水曜 6限目		木曜 6-7限目		金曜 6-7限目		水曜 7限目	
		後期15週	月曜 6限目		火曜 6-7限目		水曜 6-7限目		月曜 7限目	
	備考		授業時間の詳細は、21頁 [医学研究科における授業時間] を参照のこと。							
上記の時間に参加できない場合は、担当教員と協議の上、具体的な時間割を決定する。										
授業場所		基礎研究棟5階 解剖学Ⅰ医局		基礎研究棟5階 解剖学Ⅰ医局		基礎研究棟5階 解剖学Ⅰ研究室		基礎研究棟5階 解剖学Ⅰ		

		講義	演習	実験実習	特別研究
担当教員		八田稔久教授	八田稔久教授 島田ひろき教授 坂田ひろみ准教授	八田稔久教授 島田ひろき教授 坂田ひろみ准教授	八田稔久教授
授業内容		<p>人体の生命活動の中心であり疾患や障害の基盤となる細胞について、細胞膜や細胞内小器官の構造および整然と営まれている複雑な細胞内システムについて、その研究法（細胞化学法、電子顕微鏡法、酵素活性検出法、細胞培養法）を含めて講義を行う。また組織や器官の構造・機能について講義するとともに文献検索から実験方法論、研究発表にいたる一連のプロセスを講義する。</p>	<p>細胞および器官レベルの講義内容を深く理解するための演習を行う。基本的な研究方法に加え、専門性の高い実験手技の技術指導を行い、得られた成績に対する考察と評価、情報の検索法、学術論文の理解と批判的判断能力、論文作成能力、発表能力を習得させる。また当該科目の関連領域の幅広い知識を習得させるとともに、研究セミナーなどでの発表・討論をとおして研究の質と学生の思考判断能力や問題解決能力を高めるよう指導する。</p>	<p>細胞および器官レベルの理解に必要な基本的実習と研究・分析に必要な実験実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質分離法、電子顕微鏡標本作製法と観察法、酵素抗体法などの技術を習得理解する。 ・発生工学的実験法の基礎と応用を習得理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動器の発生学および再生医学研究 ・神経・免疫・内分泌ネットワークの発生工学的解析
授業計画 (イントラネット に掲載)	講義	http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/50101A01.pdf			
	演習	http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/50101A02.pdf			
	実験実習	http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/50101A03.pdf			
資格取得などのキャリアパス		特に無し			
研究指導教員の実務経験		医師			
履修上の注意事項		<p>①質問の受付は、随時行う。</p> <p>②特別な配慮を必要とする場合は、事前に担当教員に相談すること。</p> <p>③主科目として履修する場合は、1年次に共通科目実験動物学を履修すること。</p> <p>④履修科目届にて履修希望を届け出し、履修年度の2月に、授業科目履修報告書にて、成績を報告することにより、修了要件の単位として認定される。</p> <p>⑤履修報告の際には、履修した科目ごとに「授業改善のためのアンケート」を添付すること。</p>			
オフィスアワー		<p>八田稔久教授（基礎研究棟5階 解剖学Ⅰ教室）</p> <p>水曜日 9:30~17:00（事前にメールでの照会必須）</p> <p>e-mail thatta[at]kanazawa-med.ac.jp [at]→@</p>			